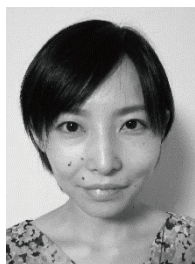


プログラミングがつなぐ情報学部と小学校（地域連携セッション：話題①）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-11-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 遠山, 紗矢香 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/10475



遠山 紗矢香

(静岡大学情報学部地域連携推進室・特任助教)

世界的に子ども向けプログラミング教育への関心が高まっている。日本の子どもたちも学校外で、子ども向けのプログラミング環境を用いて、様々な命令をブロックのように組み合わせてキャラクターやロボット等を自分の思い通りに動かす「プログラミング」によって大人顔負けのパフォーマンスを見せている。こうした子どもたちの活動で用いられるプログラミング環境は、一見大学生が使用する文字ばかりのものよりも親しみやすいが、プログラミングそのものの醍醐味は大学生向けのそれと変わらない。だからこそ、プログラミングを通じてものごとを抽象的に捉えたり論理的に記述したりする経験を積むことが子どもたちの育ちによい影響を与えることが期待されていると考えられる。大学にとっては、これまで蓄積してきたプログラミング教育のエッセンスを子ども向けプログラミング教育へと展開する方法を検討する機会になり得る。

2020年からは小学校でのプログラミング教育が開始される。授業としてプログラミング教育を実施するために、プログラミングがどのような教育効果を持ち、どのような教育目的を果たすために有効なのか、その教育方法と評価方法を一層整理していく必要がある。本発表では、小学校でのプログラミング教育の試行的な位置づけとして静岡大学情報学部地域連携推進室事業等として実施している近隣の小学校でのプログラミング教育や、小学校の先生方を対象とした講習会の成果等を共有することで、今後のプログラミング教育のあるべき方向性や、具体的な運営方針についての議論を深めたい。

演者略歴

浜松工業高等学校情報技術科、中京大学認知科学科から修士課程へ飛び入学し博士課程単位取得満期退学。博士(認知科学)。静岡大学技術職員、教育学部特任助教、情報学部学術研究員を経て、現職。国立教育政策研究所所外研究員、浜松ITキッズプロジェクト推進委員等を歴任。

専門分野/研究テーマ

認知科学、協調的問題解決、プログラミング教育

主要業績

- ・ 遠山 紗矢香 (2017). プログラミングを用いた授業づくりに向けて —「小学校からのプログラミング教育について考える」シンポジウム実施を通じて —. 『情報学研究』, 22, 103-120.
- ・ Tohyama, S. & Matsuzawa, Y., Yokoyama, S., Koguchi, T. & Takeuchi, Y. (2017). Constructive Interaction on Collaborative Programming: Case Study for Grade 6 Students Group. World conference on computing in education. (in printing)
- ・ 子ども向け協調プログラミング学習の実践および評価 (浜松市立追分小学校, 与進北小学校, 教育学部附属浜松小学校ほか).